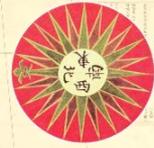




— 「大日本沿海輿地全図」幕府上呈 200 年記念集会 —

「伊能図」の現代的価値を考える



伊能図の作成は、我が国が近代化を成し遂げることに欠かすことができない基盤となる日本地図の「礎」となった偉業です。世界的にも国土の精密な実測に基づいた伊能図の価値は計り知れないと言えます。

伊能忠敬等は 1800 年より 17 年間をかけ、10 度に渡る全国の実測により全国を測量しました。その結果を測量終了後に 3 年間をかけ、彼の死後も弟子たちが引き継ぎ、3 種類の縮尺の異なる日本地図を完成させ、文政 4 年 7 月 10 日 (1821 年 8 月 7 日) に幕府に上呈しました。今年は、伊能図が完成し、幕府に上呈してから 200 年になります。

今回、「伊能図の幕府上呈」から 200 年を記念し、上呈の日 7 月 10 日に合わせて伊能図の全容、価値、作成の意義を明らかにする集会を開催します。

まさに現代に通じる「伊能図」の偉業を讃える会にしたいと考えています。

多くの皆さんの参加をお願いします。

日 時：2021 年 7 月 10 日 (土) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 (1 時間 30 分)

実施方法：リモート講演会として Webiner で配信します。(無料)

詳 細：<https://www.academyhills.com/seminar/detail/20210710.html>
(Web ページからお申し込みください。)

基調講演

鈴木 純子 (元国立国会図書館、日本地図学会名誉会員、伊能忠敬研究会特別顧問)

星埜 由尚 (元国土地理院長、元日本地図学会会長、伊能忠敬研究会特別顧問)

司会・進行

太田 弘 (日本地図学会常任委員)

主催：日本地図学会 (地図史料・地図アーカイブ専門部会)

共催：伊能忠敬研究会

協力：アカデミーヒルズ

後援：日本地図センター、東京地学協会、測量協会 等 (申請中)

背景図：伊能小図 (ゼンリンミュージアム蔵)